

第三十七回

名城大学古武道大会報告

名城大学体育会居合道部

主将 半田 祥樹

平成二十六年七月六日、名城大学内体育館にて第三十七回古武道大会が一般社団法人大日本武徳会及び中日新聞社の後援により開催されました。来賓には一般社団法人大日本武徳会の理事である濱田鉄心先生、同じく理事の竹田豊先生に御臨席いただきました。

名城大学古武道大会は二年前より学生の交流を深めるといふ目的で学生のみの大会となり、各大学体育会による日頃の鍛錬の成果を発表しました。当日は天候に恵まれ、学生の活気ある演武により盛大な大会となりました。各大学の平素の稽古の成果を目の当たりにし、伝統ある古武道が私たち若い世代に脈々と受け継がれていることを感じ、先生方、先輩方から教えていただいたことを後輩へ伝えていかなければならないと再認識し、益々稽古に

励まなくてはならないと身が引き締まりました。

最後になりましたが、大日本武徳会の先生方のご協力により、今大会も無事三十七回を終了することが出来たことに深く感謝申し上げますと共に、大日本武徳会の御発展と御繁栄をお祈り申し上げます。



サムライの刀に

まつわる悲劇と

斬れる試斬り刀

大日本武徳会 新誠館 美野 清孝

文永の役一七四年、蒙古襲来するとき名乗りを上げて一騎打ちの戦術しか知らない日本軍は大敗してしまいます。敵は皮の鎧で身軽です。この時代、日本の太刀は重ねの厚い刃肉の付いた蛤刃で日本の硬い鎧を斬る為の太刀で蒙古軍の皮の鎧ごと一刀両断する事が出来る構造でなかったことも敗北につながったと記録に残り、以来匠らは、次の蒙古襲来に備え、皮の上からでも斬れる重ねが薄く身幅のある刃肉の少ないカミソリ刃の太刀を考案したとされています。

私の地元福島県でも元禄一六九七年、会津の刀匠 三代長道（初代三善長道は最上大業物 新撰組局長近藤勇の愛刀）と会津四代兼定（十一代和泉守兼定は新撰組副長土方歳三の愛刀でありにも有名である）、その両